

映画・テレビドラマ映像分析研究会

お問い合わせ先

代表 荒木慎太郎

shintaroaraki1206@gmail.com



研究会メンバー

荒木慎太郎 「東映の不良性感度」

島津麻穂 「映画とドラマの淀君表象」

張芸馨 「中国における日本ドラマのリメイク」

西川秀伸 「ホラー映画における恐怖生成」

濱中健太 「ドゥルーズ研究」

宮内沙也佳 「アメリカヒーロー映画における肥満身体表象」



本研究プロジェクトは、近年研究され始め、活発に研究されるようになったテレビドラマに焦点を当てる。テレビドラマ制作の技術がどのように映画から受け継がれ、またテレビドラマが独自の価値を獲得し映画とは違うものとして成立していくのかを検討し、映画・テレビドラマを脚本や監督・演出といった制作の面から分析する能力を向上させることを目的とする。

映像作品を鑑賞しディスカッションを行うことが基本的な様式となるが、ゲスト講師を招聘し、専門的な分野からの意見とご教授をいただくことで、映像作品を理論・実践の面から検討する。ゲスト講師は映画美学と映画実践に精通する大阪大学名誉教授の上倉庸敬先生（大阪アジア映画祭実行委員会代表理事、京都映画祭選考委員）を予定し、制作分野や理論などの分野からゲスト講師の招聘を交渉中である。NHK アーカイブスの学術利用にも応募を予定している。

また、京都という都市は映画と縁深く、東映撮影所を始めとする撮影所と撮影地が多く存在する。近年は実写だけでなくアニメにおいても京都は多く描かれており、映像作品における京都の価値は大きい。近年の作品で、江戸から明治を舞台とする『燃えよ剣』、現代を舞台とする『いいね！光源氏君』などでロケ地となった、京都駅の近くにある東本願寺を例にすれば、外観を引きのショットで撮影する際には、周囲を切り取る工夫が必要であり、描く時代によってはショットにも影響をおよぼすことも想定できる。

映像作品の検討に加えて、撮影所や撮影地に行き、実際に目で見て観察することで、切り取られた映像の中の京都と実際の様子を検討することも行いたい。撮影地としては、東本願寺、妙心寺、大覚寺、等持院など大学の近くの撮影地や、要望によって遠方の撮影地も視野に入れている。

本研究会の意義は、映画とテレビドラマを、脚本や監督の作風といった制作の面から検討することで、実際に撮影所や撮影地に行きシーンやカット、ショットを検討する試みは新たなディスカッションの糸口となるのではないかと考える。複数人のフィルタを通して出てきた意見や発想を大切にしながら、ディスカッションを行うことで、ドラマという大衆の映像文化をより深く知り、多様で多角的な意見から議論を行いたい。